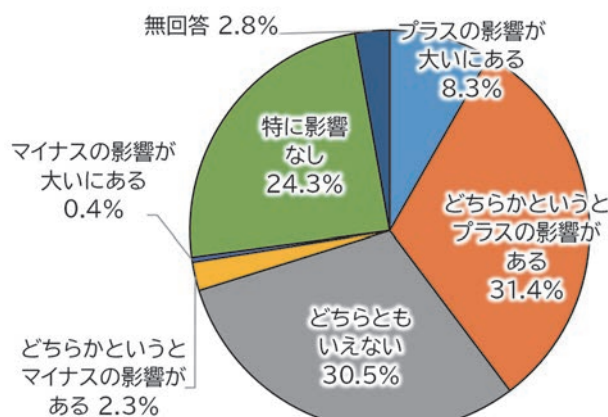


# デジタル技術を活用した 障害者の業務の状況と具体例

デジタル化の進展に伴う今後の障害者雇用への影響について、企業を対象としたアンケート調査によると、約4割の企業がプラスの影響があると考えていることがわかりました。



<一般企業3,693社の回答>

障害のある社員の業務におけるデジタル化の影響として、企業は、以下のようなメリットを感じていることがわかっています。

- ▶ 障害者の業務の**効率性・正確性**が向上した
- ▶ 障害者の業務の**手順が単純化**した（簡単になった）
- ▶ 組織全体の**生産性**が向上した
- ▶ 障害者が従事できる**業務の種類**が増加した
- ▶ 障害者が従事できる**業務の量**が増加した
- ▶ 障害者の**モチベーションの維持・向上**につながった



デジタル化に伴う障害者雇用への具体的な影響19項目のうち、「当てはまる」、「やや当てはまる」との回答が多かった項目  
<一般企業1,775社の回答>

本リーフレットでは、様々な業種の企業において、障害のある社員がデジタル技術を活用した業務に従事している事例をご紹介します。

障害者職業総合センター 調査研究報告書No.177 (2024)  
「AI等の技術進展に伴う障害者の職域変化等に関する調査研究」より

以下のホームページからダウンロードできます。

<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/kyouzai/kyouzai82.html>



独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

NIVR 障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

2024.3

## ① デジタル技術を活用した新しい仕事（問題解決や複雑なコミュニケーションが求められる仕事）

### 業務アプリ開発

近年、比較的簡単なコーディングで様々な業務アプリケーションを作ることができるツールが浸透しつつあります。

A社（その他サービス業）では、障害のある社員の中でPCの得意な方が、スキルを活かし社内の業務効率化のシステム開発に携わっています。これまで、採用活動管理・身上情報管理アプリ等を作成しました。開発の際にはプロジェクトチームを立ち上げ、現場社員のアイデアを聞きながら行っています。



### Webサイトの管理

B社（農業）では、企業サイトや自社商品を販売するためのECサイトの構築・管理に、障害のある社員が携わっています。前職でWeb関連の業務経験はありましたが、ブランクがあったため、採用後に業務を行いながら独学でスキルアップに励んでいます。

通勤の負担を軽減するためにテレワークを導入する、調子を崩した際は早めに上司に相談し休暇を取る等、体調管理も工夫しています。



※その他、システム開発、RPA開発、動画編集、チラシのデザインなどの業務でも障害のある社員が活躍しています。

## ② デジタル技術を活用した新しい仕事（比較的手順がはっきりしている仕事）

### アノテーション

C社（製造業）では、アノテーション（AIの学習に用いる画像などに情報タグをつける作業）に様々な障害のある社員が携わっています。例えば工場で生産している部品を撮影した大量の画像の中から「良い部品」と「不良品」を見分けてタグをつける、道路の画像に写った動物の種類を判断してタグをつけるなどの作業です。

作業は簡単なものから、画像に写っている物体の輪郭を正確に囲んだりする難しいものまであります。根気のいる作業ですが、迷ったときには障害のある社員同士で相談しながら進めています。タグ付けされた画像は画像認識システムなどの最新の技術開発に活用されます。



### スキャン業務

D社（製造業）では、在宅勤務化・ペーパーレス化に伴い、紙の文書をスキャンしてデータ化する業務が増加しました。名刺からA0サイズの図面までを専用のスキャナでスキャンし、データを確認してファイル名をつけるまでの一連の工程を一人で担当しています。PDFソフトの文字認識の進化や、冊子の裁断・再製本が可能な機械の導入等により、現在では他社へ外注した場合と同程度のコストで行えるようになりました。



※その他、データ入力、集計、インターネットを活用した情報収集などの業務でも障害のある社員が活躍しています。データ入力では、帳票OCRが読み取った数値等の確認作業を人が担当することで、入力は不得意でも確認は得意な方が業務に携われるようになった例もあります。

### ③ デジタル化の進展以前から障害のある社員が活躍していた仕事（デジタル技術によって仕事内容が変化した仕事）

#### 生産管理



E社（製造業）では、生産管理にタブレット端末を活用しています。生産指示がバーコードで伝達され、それをタブレット端末で読み取って作業を行います。

このタブレット端末に現在の処理状況を入力する作業は、従来管理者である健常者の社員が担当していましたが、近年では障害のある社員による入力作業が進んでいます。タブレット端末の導入により、「字を書くことは難しいがタブレット端末の操作はできる」という方が、生産管理業務の一部に携わることができるようになりました。

#### ピッキング



F社（運輸業）では、倉庫業務で健常者の社員とともに知的障害のある社員が多く働いています。同社の倉庫ではデジタルピッキングを導入しており、バーコードをセンサーで読み取り、表示された数量どおりに商品を仕分けて確認ボタンを押す作業を行っています。

紙の指示書により作業を行っていた頃と比べ、ミスは大幅に減りました。同社では業務効率化のためのデジタル化が先に進み、障害者雇用は後から拡大した形ですが、元々デジタル化が進んでいたことで障害者の採用を順調に拡大することができました。

※その他、備品管理、部品の照合などの業務でも障害のある社員が活躍しています。

### ④ デジタル化の進展以前から障害のある社員が活躍していた仕事（一部の作業でデジタル技術を活用している仕事）

#### 調理（作成数の入力）



G社（小売業）では、店舗の厨房で障害のある社員を積極的に採用しています。この企業では、全ての店舗に鮮度管理システムが導入されており、厨房担当者は障害の有無にかかわらず、品物の作成個数と作成時間を店舗のタブレット端末から入力しています。

その他、厨房業務を始める前に行う衛生チェック（健康状態や発熱の有無などの記録）にもタブレット端末が活用されており、紙でチェックを行っていた頃に比べて効率的に行えるようになっているとのことです。

#### 介護補助、清掃（記録の入力）

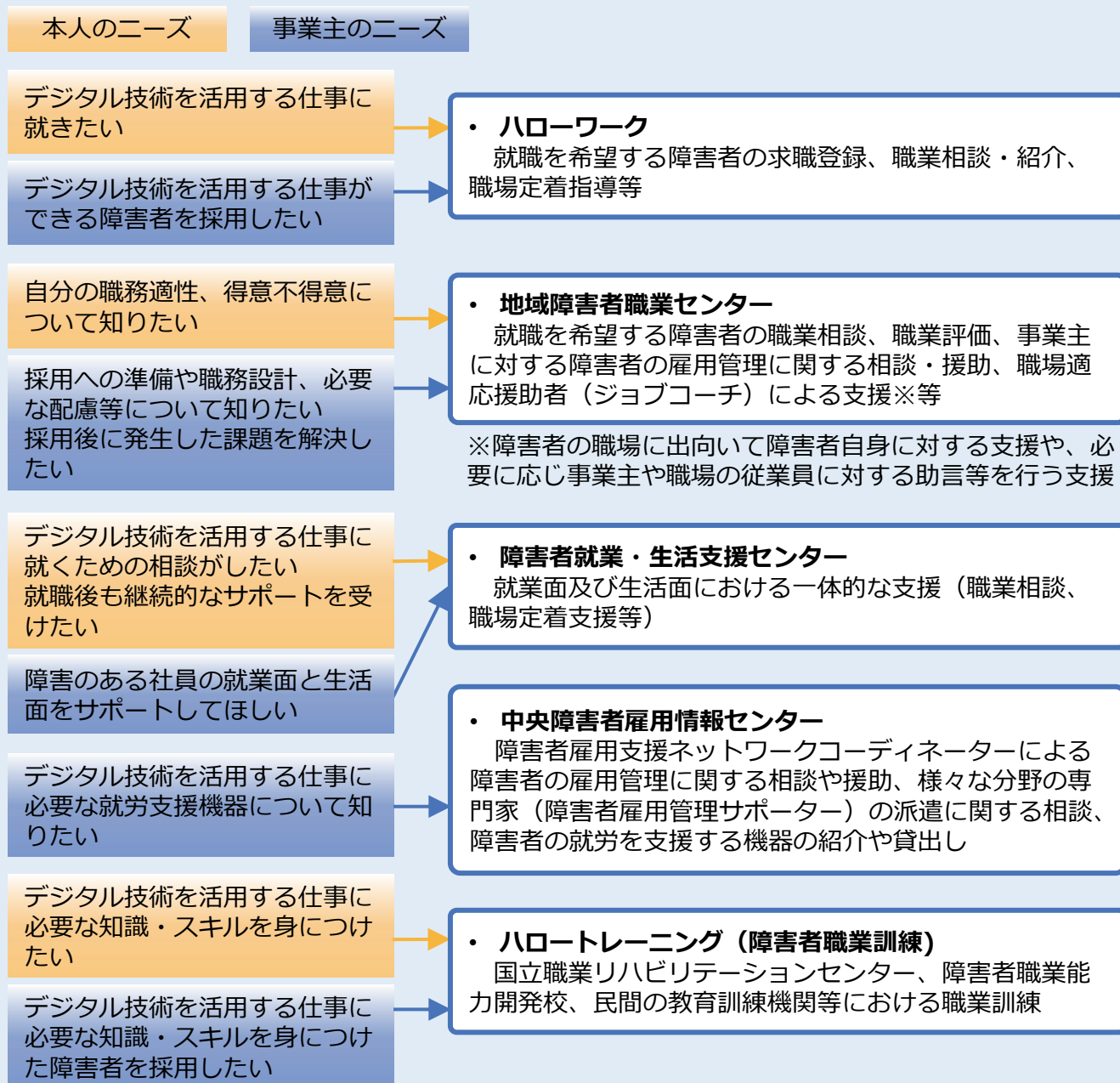


H社（医療、福祉業）では、特別養護老人ホームの食事の配膳や洗濯などの介護補助業務に障害のある職員が携わっています。障害のある職員は直接的な介護業務は担当していませんが、PCが操作できる方は介護記録システムを用いて簡単な入力作業を行うことがあります。例えば入居者の方に声掛けを行い、排泄があったことが確認できたら排泄記録の入力を行ったり、清掃後に清掃の完了報告の入力を行ったりしています。

障害のある職員の中には、介護の研修を受講し資格を取得した方もおり、今後は可能な範囲で直接的な介護業務を担当することを目指しています。

※その他、トラック運転（デジタルタコグラフの利用）やビルの設備管理（点検業務におけるタブレット端末の利用）などの業務でも障害のある社員が活躍しています。

# 障害のある社員の業務のデジタル化に係る主な支援機関・制度



## 就労支援機器の展示・貸出

- 中央障害者雇用情報センターでは、障害者を雇用している、又は雇用しようとしている一般の事業主の方に、無料で就労支援機器の展示・説明・貸出しを行っています。
- 主な貸出機器は、**拡大読書器（卓上型・携帯型）**、**画面読み上げソフト**、**画面拡大ソフト**、**集音システム**、**対話支援システム**、**電話関連対応機器**、**マウス補助具**、**点字ディスプレイ**、**イヤーマフ**、**ノイズキャンセリングヘッドホン**、**タイマー**、**パーティション**等です。
- 就労支援機器の貸出しをご希望の場合は、まずは中央障害者雇用情報センター 就労支援機器担当までお問い合わせください。  
(電話) 03-5638-2792  
(メール) syougai-soudan@jeed.go.jp

